

Dは23.1-24.0°Cでオヤビッチャの表面水温のモードと比較すると低い。個体数加重平均水温も低く24.0°C、出現点数加重平均水温も低く24.7°Cである。出現個体の全長組成は図-5.0に示した通りである。全長範囲は2.7-21.0mmでモードは4-5mmにある。

57. Labridae ベラ科 (10回出現、13尾)

Labridae gen. spp. ベラ科種不明 (10回出現、13尾)

四季を通して出現し、出現盛期は春期、出現海域は黒潮主流域を除く全海域で、主分布域は湾内である。出現個体の全長範囲は5.8-14.2mmである。出現時刻別の1網当りの出現個体数は夜間に多く出現した。沖縄近海にはベラ科の魚種は約90種程生息している。

58. Scorpididae カゴカキダイ科 (12回出現、21尾)

Microcanthus strigatus (CUVIER et VALENCIENNES) カゴカキダイ

(12回出現、21尾)

春期から秋期にかけて出現した。出現盛期は夏期である。出現海域は全海域で主分布域は黒潮主流域である。時刻別の1網当りの出現個体数は08-22時に出現し、モードは16-18時で夜間には少ない。出現点の表面水温範囲は21.8-30.1°Cでモードは28.1-29.0°Cにある。個体数加重平均水温は27.2°C、出現個体数加重平均水温は27.1°Cである。出現個体の全長組成は図-5.1に示した通りである。全長範囲は3.4-14.7mmでモードは6.1-7.0mmにある。

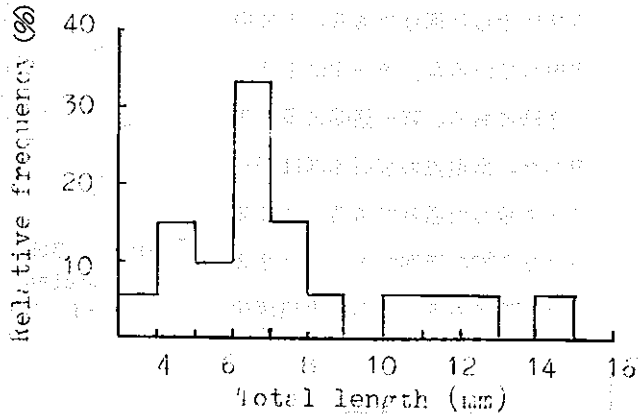


Figure - 5.1 Total length composition of larvae of *Microcanthus strigatus*

59. Cheatodontidae チョウチョウオ科 (3回出現、5尾)

Cheatodontidae gen. sp. チョウチョウオ科種不明 (3回出現、5尾)

春期から秋期に出現し、出現海域は黒潮主流域と近海域である。出現個体の全長範囲は8.2-14.8mmである、全て夜間に出現した。

60. Acanthuridae ニザダイ科 (4回出現、5尾)

Acanthuridae gen. sp. ニザダイ科種不明 (4回出現、5尾)

夏期から秋期に出現し、出現盛期は夏期、近海域に出現し、全長範囲は2.7-5.0mmである。

61. Siganidae アイゴ科 (2回出現、3尾)

Siganidae gen. sp. アイゴ科種不明 (2回出現、3尾)

1972年12月のA-1に全長2.0mm1尾、1973年7月のO-2に全長9.0mm、2尾が出現した。3個体とも夜間に出現した。